

いづれも発見時の肥満度は20%以上で、OGTTで耐糖能の異常とともにIRIの遅延型過分泌を認め、成人型糖尿病と診断された。これらの症例の診断時の血清コレステロールおよびTGの値は、個々の症例で異なり、コレステロール値は103~346 mg/dl, TG値は110~222 mg/dlで、必ずしも肥満度とは相関しておらず、一定の傾向はみられていない。

しかし、食餌療法開始後の血清脂質と肥満度、FBSを比較してみると、肥満度が改善されるとともにFBS

は正常に近づき、それに伴って血清コレステロール、TG値が低下する傾向がうかがえ、再びコントロールが悪化すると、肥満度の増加、FBSの上昇、血清コレステロール、TG値の上昇する傾向が認められた。とくに、コレステロールよりもTGと耐糖能の異常や肥満との相関がより強いように思われた。

肥満型糖尿病のコントロールの指標として血清コレステロール、およびTGの測定は有用な手技と思われる。

## 家族性 Type IIa 高リポ蛋白血症の HDL-CH 濃度の検討

慶応義塾大学老人内科 五 島 雄 一 郎  
入 江 昇

動脈硬化症は必ずしも成人になってから発生、進展するとはかぎらず、最近では小児期より既に動脈壁等に硬化性病変が存在するとの考えが定説となりつつある。そこで動脈硬化疾患の進展因子である高脂血症を小児期の早期に発見し、適切な治療をすることは将来の動脈硬化症の進展の防止に重要である。また最近 Miller & Miller が生体内の Cholesterol (CH) が High Density Lipoprotein-CH (HDL-CH) 濃度と負の相関を認める成績を報告して以来、虚血性心疾患と HDL-CH 値との関連性が疫学的・臨床的分野で検討され、低 HDL-CH 血症が虚血性心疾患の負の危険因子であることが報告されている。そこで今回は臍帯血の総 CH 値、HDL-CH 値を測定し、さらに家族性 Type IIa 高脂血症の家族調査をし、HDL-CH 値を検討したので報告する。

### 対 象

1. 慶応病院および慶応伊勢病院の分娩時の臍帯血の CH 値、HDL-CH 値を測定した。測定法は Lipid Research Clinics Program の Heparin MnCl<sub>2</sub> による沈降法で HDL を分離し、CH を Technicon Autoanalyzer 法で、TG を Fletcher 法で各々測定した。
2. 慶応病院通院患者の IIa 型高脂血症の 3 家系と、低βリポ蛋白血症の 1 家系の家族調査をし、CH 値、

HDL-CH 値を前述の方法で測定した。

### 成 績

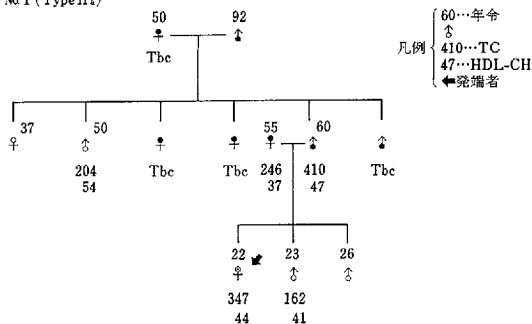
1. 臍帯血の CH 値は男児 71 ± 15 mg/dl で、一方女児も 72 ± 20 mg/dl で男女差を認めなかった。また HDL-CH 値は男児 39 ± 12 mg/dl, 女児 40 ± 12 mg/dl であった。また総 CH 値と HDL-CH 値とは有意な正の相関を認めたが、臍帯血の HDL-CH 値と母親の総 CH 値、HDL-CH 値とは有意な相関は認めなかった。(表 1)

2. 家族性 IIa 型高脂血症 3 家系、家族性低βリポ蛋白血症 1 家系の家族調査を行った(図 1)。No. 1 の家系は IIa 型高脂血症で父親が CH 値 410 mg/dl で、HDL-CH 値は IIa 型高脂血症発現者に於いてはやや

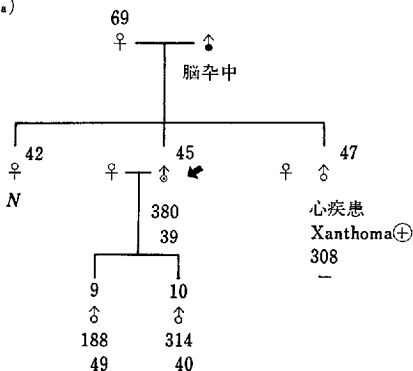
表 1 臍帯血の HDL-CH 値 (mg/dl)

	Mother	Cord Blood	
		Male babies	Female babies
No.	75	34	41
T.CH (mg/dl)	272 ± 46	71 ± 15	72 ± 20
HDL-CH (mg/dl)	71 ± 19	39 ± 12	40 ± 12 (Mean ± SD)

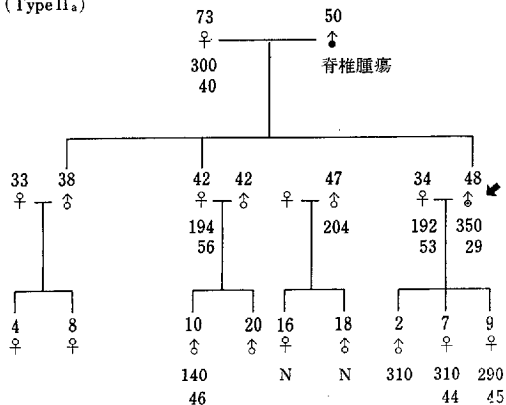
No 1 (Type II<sub>a</sub>)



No 3 (Type II<sub>a</sub>)



No 2 (Type II<sub>a</sub>)



No 4 (Hypoβ)

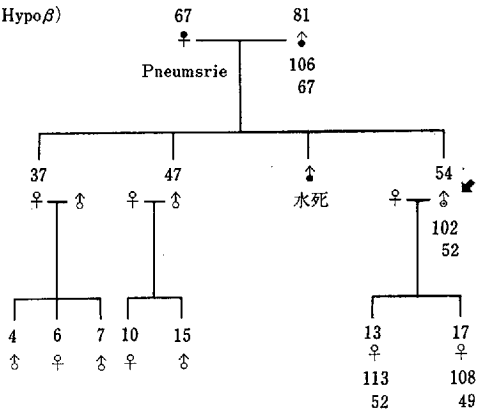
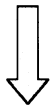


図 1

低値であった。しかし CH 値 204 mg/dl の正脂血症者の HDL-CH 値は正常であった。No. 2 の家系も II<sub>a</sub> 型高脂血症で、娘 2 人、息子 1 人が II<sub>a</sub> 型高脂血症で HDL-CH 値は 29, 44, 45 mg/dl と低値であったが、他の正脂血症者の HDL-CH 値は正常であった。また No. 3 の II<sub>a</sub> 型高脂血症の家族に於いても、II<sub>a</sub> 型高脂血症の発現者の HDL-CH 値は低値であった。No. 4 の家系は低βリポ蛋白を呈し、CH 値 102 mg/dl で、その父親も 106

mg/dl、娘 2 人もそれぞれ 113, 108 mg/dl と低値であった。しかし各々の HDL-CH 値は正常であった。以上 II<sub>a</sub> 型高脂血症の家系で高脂血症発現者は低 HDL-CH であったが、同一家系内でも高脂血症の発現しない者の HDL-CH 値は正常で、HDL-CH 値は高αリポ蛋白血症のように家族性に伝達されるものも存在するが、II<sub>a</sub> 型高脂血症の家系に於いては LDL の代謝により規定されている可能性が示唆された。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



動脈硬化症は必ずしも成人になってから発生,進展するとはかぎらず,最近では小児期より既に動脈壁等に硬化性病変が存在するとの考えが定説となりつつある。そこで動脈硬化疾患の進展因子である高脂血症を小児期の早期に発見し,適切な治療をすることは将来の動脈硬化症の進展の防止に重要である。また最近 Miller&Miller が生体内の Cholesterol (CH) が High Density Lipoprotein-CH (HDL・CH) 濃度と負の相関を認める成績を報告して以来, 虚血性心疾患と HDL-CH 値との関連性が疫学的・臨床的分野で検討され, 低 HDL-CH 血症が虚血性心疾患の負の危険因子であることが報告されている。そこで今回は臍帯血の総 CH 値, HDL・CH 値を測定し, さらに家族性 Type IIa 高脂血症の家族調査をし, HDL-CH 値を検討したので報告する。